



映画『新地町の漁師たち』上映会&対談 (山田徹監督と新地町の漁師さん)

日 時：2016年7月2日(土) 13:30~16:20(予定) 開場：13:00~
会 場：明治大学 和泉キャンパス図書館ホール(定員124名)

〒168-8555 東京都杉並区永福1-9-1

参加費：無料(学生・教職員・一般、事前申込不要)

※定員124名につき、当日先着順

満席になった場合は入場をご遠慮いただきますので、ご了承下さい

《プログラム》

- | | |
|-------|--------------------|
| 13:30 | 開会挨拶 |
| 13:35 | 上映会(映画『新地町の漁師たち』) |
| 15:10 | 休憩 |
| 15:25 | 新地町の食材紹介 |
| 15:30 | 対談(山田徹監督と新地町の漁師さん) |
| 16:15 | 閉会挨拶 |

《福島県相馬郡新地町と明治大学》

新地町は福島県最北部の太平洋岸にあり、宮城県山元町に隣接。人口約8000人。

2012年1月26日、新地町と明治大学は「復興支援に関する協定」を締結。東日本大震災以降の地域復興諸問題の解決や、対策の実施を協働するためのもので、学生・教職員の交流を深めつつ、先端農業分野や教育連携、また、震災復興支援センターを中心に復興施策に関する取組を展開している。

特に2012年から2015年まで、単位付与する実習科目である、学部間共通総合講座「東日本大震災復興支援ボランティア講座」のボランティア実習を新地町で実施し、「明大Week in 新地」と呼んで、夏祭り支援、学習支援などを含めた組織的なボランティア活動を展開した。2015年には新地町に本学の活動拠点が設置された。



主催：福島県新地町

共催：明治大学震災復興支援センター

※問合せ先：明治大学震災復興支援センター

Tel：03-3296-4412



大漁旗



新地町(2011年12月)



昔の安波祭 神楽

《映画のストーリー》

福島県新地町の漁師たちを2011年6月から2014年11月3日の安波祭までの3年半の期間撮影した記録映画。

東日本大震災による津波と原発事故によって福島県の漁師たちは生業としてきた漁業活動の自粛を余儀なくされた。操業のめどがたたない中、海での漁業権を持つ漁師たちと東京電力との間で増え続ける汚染水対策の一つである「地下水バイパス計画」の説明会が始まった。計画を容認するか否かの意見が同じ漁業者間でも分かれる中、いかに合意形成を図るかが問題となっていた。

津波と原発事故がもたらした未曾有の大災害は、浜の生活を一変させただけでなく、人間関係の軋轢を生み出し、さらには漁業が震災前から抱えていた問題を大きく露呈させた。

単純な復興とはいかない環境下で漁師たちは何に苦しみ、何を考え、どう活動していくのか。漁師という家業、浜の伝統行事など、土地の暮らしや歴史を見つめ直しつつ、災害が生んだ矛盾や困難を描くことで、被災者／非被災者の立場を超えた「私たちの復興」を問いかけていく。

《山田徹監督 プロフィール》



1983年、東京新宿生まれ。自由学園卒。映画美学校ドキュメンタリー科を経て、2009年からドキュメンタリー映画の製作会社である自由工房に勤務。記録映画作家である羽田澄子監督に師事する。演出助手の作品として『遙かなるふるさと 旅順・大連』(2011)、『そしてAKIKOは・・・あるダンサーの肖像』(2012)がある。

そのほか個人活動として、国内アートプロジェクトの記録映像に関わりつつ、2011年3月11日の東日本大震災から4年半をかけて映画『新地町の漁師たち』(2016)を完成させる。初監督作品となる本作で第3回グリーンイメージ国際環境映像祭にて最高賞であるグリーンイメージ大賞を受賞する。